

「新・尾瀬ビジョン」について

～「あなた」と創る「みんな」の尾瀬～



環境省関東地方環境事務所
片品自然保護官事務所
自然保護官 庄司 亜香音

ビジョン改定の経緯

「尾瀬ビジョン」とは？

- ◆2006年11月、「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」が、今後の尾瀬の保護と利用のあり方を示す「尾瀬ビジョン」を策定
- ◆2007年8月、尾瀬ビジョンをうけ、日光国立公園から分離して尾瀬国立公園が誕生
- ◆2008年1月、尾瀬ビジョンの進行促進等を目的として、「尾瀬国立公園協議会」を設置



策定から10年が経過し、尾瀬を取り巻く社会情勢や自然環境が大きく変化しているため、その変化を踏まえ将来を見据えたビジョンへと改定

「尾瀬ビジョン」改定の経緯

2016年 3月	尾瀬国立公園協議会においてビジョンの課題と今後の進め方を検討・共有→レビューを開始
2017年 3月	尾瀬国立公園協議会にて「改定の方向性」を確認
6月～12月	関係者ヒアリング及びアンケート実施
8月30-31日	尾瀬サミット2017にて意見交換
2018年 3月	尾瀬国立公園協議会にて事務局素案を議論
7月～8月	地元意見交換会（山ノ鼻地区、尾瀬沼地区） 高校生との意見交換会を実施
夏休み中	ビジョンを彩る地元小学生の絵を募集
9月10日	尾瀬国立公園協議会において 「新・尾瀬ビジョン」（案）を審議

3

関係者ヒアリング及びアンケート

ヒアリング先

- ・ 地域住民
- ・ ガイド
- ・ 山小屋、民宿
- ・ 交通事業者
- ・ ボランティア
- ・ ツアー会社
- ・ 利用者
- ・ 有識者

…等



尾瀬に関わっている、これから関わって
いただきたい多くの皆様からのご意見

【ビジターセンターでの利用者アンケート】

- ・ 尾瀬で素敵だと思ったこと、楽しかったこと、驚いたこと
- ・ 尾瀬で残念だったこと、困ったこと、もっとこうだったら良かったこと
- ・ 尾瀬でもっとこんなことができたら、こんなサービスがあったらいいなと思うこと

を教えてください。

4

尾瀬サミット2017をはじめ、 尾瀬国立公園協議会など 様々な場で議論

若い世代とのパネルディスカッション、サミット参加者からの意見発表

- ・ 尾瀬を「守る」ために
- ・ 尾瀬を「楽しむ」ために
- ・ これからの尾瀬はどうあるべきか



5

意見交換会報告

◆ 日程

- ・ 7月30日（月）山ノ鼻地区 12名
ガイド、山小屋スタッフ、ビジターセンタースタッフ、ボランティア等
- ・ 8月3日（金）山ノ鼻地区
尾瀬高校生等 9名
- ・ 8月6日（月）尾瀬沼地区 15名
ガイド、山小屋スタッフ、ビジターセンタースタッフ、ボランティア等



意見交換会の様子

6

新・尾瀬ビジョンの副題について

◆ 副題：「あなた」と創る「みんな」の尾瀬に決定

若い世代（尾瀬高校生）にビジョン概要を説明した上で、協議会構成員からいただいた副題候補について議論してもらい決定

＜高校生からの意見＞

- ・「みんな」は尾瀬ビジョンにとって重要なキーワード
- ・「みんな」という言葉だけではどうしても他人事に思えてしまうので、自分事として捉えてもらえるように「あなた」という言葉をいれる
- ・個々人がそれぞれの尾瀬を目指すのではなく、「あなた」が一部となって「みんな」の尾瀬を創っていくので、「みんな」で創る「あなた」の尾瀬ではなく「あなた」と創る「みんな」の尾瀬がふさわしい



7

新・尾瀬ビジョンを彩る子どもたちのイラスト



檜枝岐小学校 2年



檜枝岐小学校 3年



檜枝岐小学校 3年



檜枝岐小学校 4年



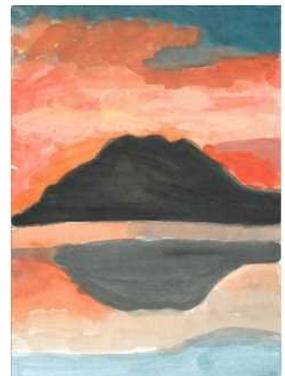
片品小学校 6年



片品小学校 6年



片品小学校 6年



片品小学校 6年

8

◆新・尾瀬ビジョンとは？

尾瀬に関わる多くの人々の想いをとりまとめた

“これからの尾瀬がめざす姿と方向性”

- 「みんな」とは
尾瀬の生きものをはじめ、すでに尾瀬と関わっている人、まだ尾瀬との関わりに気づいていない人、さらにこれから尾瀬と関わっていく人すべて
- 「尾瀬がめざす姿」とは
「あなた」や次代を担う子どもたちにとって20年後の尾瀬がどうあってほしいか
- ビジョンで考える範囲
「尾瀬」を尾瀬国立公園とそこを取り巻く広がり一体。自然を守るための普及啓発や魅力の発信などは、地域を限定せず「尾瀬」以外でも進めていく
- ビジョンの見直し
絶えず変化する自然や社会環境を踏まえながら見直しを実施

9

◆尾瀬を取り巻く自然的・社会的環境の主な変化

- (1) 少子高齢化・人口減少による影響
- (2) ライフスタイルの変化とレジャーの多様化
- (3) 外国人旅行者の増加
- (4) 気候変動による自然生態系への影響
- (5) ニホンジカによる影響
- (6) 財政状況などの悪化



高山植物を採食するニホンジカ

10

◆活かしたい尾瀬の強み

- (1) 歴史・伝統・文化の魅力
- (2) 尾瀬が持つ普遍の価値
- (3) 自然保護の原点
- (4) ごみ持ち帰り運動発祥の地
- (5) 多様な主体が参加できる「仕組み」の存在
- (6) 一級の自然の中で歩き、学び、宿泊できる特別感
- (7) 受け入れることができる利用者層の幅広さ



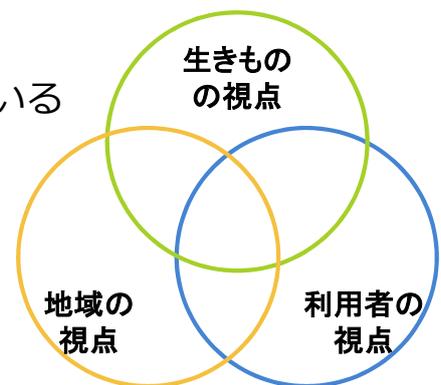
企業と連携したごみ持ち帰りの呼びかけ



親子での尾瀬散策

◆尾瀬がめざす姿 みんなに愛され続ける尾瀬

- 「生きもの」の視点
尾瀬本来の生きものがあるのまに生きている
- 「利用者」の視点
いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる
- 「地域」の視点
地域の人々が誇りを持っていきいきできる



3つの視点のバランスが重要

◆行動理念 みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ

今後の方向性と必要な取組

みんなの尾瀬

みんなで守る

みんなで楽しむ

尾瀬の普遍の価値を広く発信し、
尾瀬を愛する輪を広げていきましょう

- 視点① 愛される尾瀬づくり
- 視点② モデルとなる尾瀬づくり
- 視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり
- 視点④ 情報の効果的・効率的な発信
- 視点⑤ 尾瀬の現状把握



外国人利用者とニッコウキスゲ

具体的な取組のイメージ

■尾瀬のファンづくり

外国人や障がいのある方をはじめ、新たな利用者やリピーターを獲得し、尾瀬のファンを増やしていくため、SNSやインターネットを活用した統一的な情報発信を強化

13

今後の方向性と必要な取組

みんなの尾瀬

みんなで守る

みんなで楽しむ

かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、
しっかりと次代に引き継いでいきましょう

- 視点① 自然豊かな尾瀬づくり
- 視点② 歴史・伝統・文化が息づく
尾瀬づくり
- 視点③ 野生動物との軋轢の解消
- 視点④ 科学的知見に基づく保全



ミズバショウを採食するシカ

具体的な取組のイメージ

■シカ被害の低減

「尾瀬国立公園シカ管理方針」の改定や、リアルタイムでのシカ移動情報の共有や越冬地での捕獲の強化等による広域連携の推進

14

今後の方向性と必要な取組

みんなの尾瀬

みんなを守る

みんなを楽しむ

自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたい尾瀬にしましょう

- 視点① 魅力あふれる尾瀬づくり
- 視点② 幅広い楽しみ方の検討
- 視点③ 楽しむための土台づくり



ガイドによる自然観察の様子

具体的な取組のイメージ

■エコツーリズムの促進

自然と文化の魅力をパッケージ化した体験プログラム、ガイド同伴の限定プログラムの開発など、尾瀬の宝（地域資源）を活かした尾瀬ならではのエコツーリズムを推進

15

今後の検討・進行管理

尾瀬国立公園協議会

【目的】

- 「新・尾瀬ビジョン」の進行促進、進行管理及び実現
- 参加型管理運営体制の構築

【内容】

- 一年間の達成評価（レビュー）と今後の方向性
 - ・ 各種会議と連携して具体的な取り組み内容を検討
- 各種取り組みの情報共有
 - ・ 優良事例の紹介と共有（各主体から発表）



適正利用小委員会



シカ対策協議会

…



その他の会議等